

# 平成27年度 会派調査研究報告書


(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	創 始 会
事 業 名	蘇我スポーツ公園整備の概要について
事 業 区 分	研究研修 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">調 査</span>

## 1 上田市での課題と研修・調査の目的

上田市では、青少年のスポーツが全国的に活躍をしているが、他の市町村と比較するとスポーツ施設の老朽化が進んでいる現状がある。そこで今回は、スポーツ施設の先進地を視察した。

## 2 実施概要

実施日時	視察先	千葉市 蘇我スポーツ公園
平成27年5月13日(水) 9:45 ~ 11:40	担当部局	都市局 公園緑地部 公園管理課・大規模公園再整備室
報 告 内 容	<p>1 市の概要 面積：272.08 km<sup>2</sup> ・ 人口：961,749人 千葉県のほぼ中央部、東京から約40kmに位置する。戦後、都市基盤の整備が行われ、東京湾の一大工業都市となる。1992年に、政令市に移行する。</p>	
	<p>2 市の特徴 千葉市は、充実した都市機能と豊かな自然を併せもつ、バランスのとれた大都市である。 現在、JR千葉駅周辺を中心とする千葉都心の再生、幕張メッセを核とする幕張新都心の整備、蘇我臨海部を中心とした蘇我副都心の育成など、3つの都心を軸とした都市づくりを推進している。</p>	
<p>3 蘇我スポーツ公園整備の概要 市民の健康づくりとスポーツ振興に寄与し、災害時には広域的な防災拠点として機能する運動公園としての整備を進めている。 フクダ電子(株)の全面的な支援のもと、これまで、フクダ電子アリーナ(球技場)、フクダ電子スクエア(サッカー・ラグビー等に対応)、フクダ電子ヒルスコート(テニスコート)、遊具広場、駐車場等の整備を行い、平成26年4月には、フクダ電子フィールド(サッカー・ソフトボール等に対応)の供用を開始した。 平成23年11月には、市長マニフェストの取り組みとして、未整備区域(約23ha)の見直しを行い、全体で約23億円の費用を縮減した。 これを踏まえ、第2多目的グラウンド(少年軟式野球・ソフトボール等に対応)や駐車場の整備を進めている。</p>		 <p>フクダ電子アリーナ(球技場)</p>

#### 4 まとめ

千葉市は、スポーツ王国（高校野球・サッカー（高校・プロチーム）等）として全国的に知られており、強力なスポンサー（フクダ電子（株）等）が所在する都市であることも、スポーツ施設整備の強みとなっている。

広大な埋立地を利用して、約40haの敷地にJリーグ仕様のサッカースタジアムをはじめ、さまざまなスポーツ施設が整えられている。

特に、フクダ電子アリーナ（球技場）は、19,000人の観客を収容でき、芝生の維持管理に年間4,000万円をかけるという手の入れようである。その芝生の素晴らしさ、緑のジュータンに感嘆した。こんなサッカー（ラグビー兼用）競技場が上田市にあったら、スポーツの振興や地域の活性化に、大いに貢献できるだろう。

上田市においては、スポーツ施設（野球場・陸上競技場・体育館・サッカー場・テニスコート等）の老朽化が激しい。その上、手狭で観客の収容人員も少ないことから、県大会や国体等の大きな大会は、その開催条件に適合せず、大会が開催できないのが現状である。

特に以前から、関係者や多くの市民から、市内に天然芝のサッカー場等の運動公園整備の強い要望がある。

今後、2019年のラグビーワールドカップのキャンプ地誘致活動も視野に入れた時、より一層、スポーツ施設の充実に力を入れる必要があると感じた。

# 平成27年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	創 始 会	
事 業 名	オオカミを用いた有害鳥獣駆除について	
事 業 区 分	研究研修	<input type="checkbox"/> 調 査

## 1 上田市での課題と研修・調査の目的

全国的に鳥獣による被害が多発する中、上田市においても鳥獣被害が拡大する一方であり、鳥獣の個体数の増加に駆除が追いついていないのが現状である。  
旭山動物園では、オオカミを用いた有害鳥獣駆除の調査、研究に取り組んでいる。  
オオカミを用いた有害鳥獣駆除の可能性と現在までの研究成果について調査した。

## 2 実施概要

	実施日時	視察先	旭川市 旭山動物園
	平成27年5月14日(木) 10:30~14:00	担当部局	旭山動物園 坂東 元 園長
報 告 内 容	<p>1 市の概要 面積：747.60 km<sup>2</sup> ・人口：347,095 人 北海道のほぼ中央部、石狩川など4河川が市内を貫流し、丘陵に囲まれた上川盆地の中心に位置する。</p> <p>2 市の特徴 食料品・家具・紙パルプなどの製造業や卸、小売業、農業をはじめとする多様な産業が立地し、教育、文化、医療等の高次都市機能が集積する。道内2位の人口を有する北北海道の拠点都市である。また、全国有数の米どころでもある。</p> <p>3 視察事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 野生動物の生息環境への取り組み</li> <li>・ 人間と野生動物との共生への取り組み</li> <li>・ 北海道における鳥獣害の実態と駆除の取り組み</li> <li>・ オオカミを用いた害獣駆除の取り組み</li> </ul> <p>4 取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北海道には、エゾ鹿が60万頭生息していて、ハンターによる駆除を実施している。</li> <li>・ 駆除した頭数の2割を、ジビエ料理に流用している。</li> <li>・ 1市町村だけでなく広域的な駆除を実施。</li> <li>・ 鹿は、オオカミに本能的な反応を見せ、近寄らない。</li> <li>・ オオカミの代わりに犬を使った害獣駆除の研究、調査。</li> </ul>		

## 5 課題

- ・ オオカミを生息させることは、獣害対策には大変な効果はあるが、現代社会においては、とうてい受け入れることは出来ない現状である。
- ・ オオカミが生息すると、獣だけでなく人間や家畜にまで被害が及ぶ可能性もある。
- ・ ハンターの高齢化が進み、現状では、これ以上の成果は望めない。
- ・ 若手ハンターの育成に取り組んでいるが、規制が厳しく、負担もあり、なり手がいない。
- ・ 人間社会が、知らず知らずのうちに鹿の繁殖を手助けをしている。

## 6 これらの取り組みを上田市にどう活かせるか

上田市においてもハンターの高齢化が進んでおり、銃により行う駆除は、かなり厳しい現状がある。罾による駆除も実施されていて効果は上がっているが、鹿の個体数の増加には追いつかず、人による駆除にも限界がある。

人間にとって受け入れが難しいオオカミではなく、ペットとしても飼われている犬をオオカミの代替として活用できるという話を聞き、この考え方には一定の合理性を感じた。

具体的には、防護柵の代わりに、犬が走れるほど長い鉄のロープに犬をつなぎ、鹿の侵入を阻止するというものである。これには人件費はかからないことが、費用対効果の面で群を抜く施策になり得るのではなかろうか。上田市で試行する価値はあると思われる。



# 平成27年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	創 始 会	
事 業 名	財政面から見た大学運営について	
事 業 区 分	研究研修	調 査

## 1 上田市での課題と研修・調査の目的

長野大学の公立大学法人化についての検討を進めているが、将来的な財源の確保が大きな懸念材料とされる。市立大学である名寄市立大学の財政面からみた大学運営を学ぶことで、長野大学の公立大学法人化に向けた動きに対する検討・提案の材料とするため視察した。

## 2 実施概要

	実施日時	視察先	北海道 名寄市 名寄市立大学
	平成27年5月15日(金) 9:30~11:30	担当部局	名寄市立大学 事務局 教務課・総務課
報 告 内 容	<p>1 市の概要 ( )内は上田市 面積：535.23 km<sup>2</sup> (552.00 km<sup>2</sup>) ・ 人口：30,591人 (159,597人) ・ 人口密度：55.1人/km<sup>2</sup> (286.0人/km<sup>2</sup>) 北海道の北部、名寄盆地の中央に位置する。年間の寒暖差は60 を超え、面積の約6割が山林である。</p> <p>2 市の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 将来都市像「星・雪・きらめき 緑の里 なよろ」</li> <li>・ 住みよさ：総合196位〔51.81〕</li> <li>・ 成長力：総合133位〔消費77位・産業344位〕</li> <li>・ 民力度：総合470位〔消費402位・産業473位〕 東洋経済新報社のランキングによる。</li> </ul> <p>3 名寄市立大学の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒数：692人</li> <li>・ 名寄市立大学の理念 ：「名寄市立大学は、ケアの未来をひらき、小さくてもきらりと光る大学を目指す。」</li> </ul> <p>名寄市立大学は日本最北の公立大学で、市立名寄短期大学(1960年開学)を改組し、2006年に保健福祉学部(栄養学科、看護学科、社会福祉学科)を開設する。 これまで、道北地域における人々の生活を豊かにするための文化や情報の発信基地としての役割を果たしてきた。都会の大規模校には見られないような、信頼関係に基づく家庭的で自由な学風が確立されており、今では北海道のみならず全国から学生が集まり、勉学に励んでいる。</p>		

#### 4 考 察

名寄市の平成 27 年度一般会計予算の総額約 232.9 億円の内、教育費は全体の 27%となる約 63 億円。また、教育費に占める大学費は、37%の約 23.2 億円。その内、教授の給料などを含む教育振興費が 46%となる約 10.6 億円を占めている。

国から大学への交付金 については、近年、交付金が増加していることもあり、名寄市立大学の場合、平成 22 年度からは、歳入歳出の収支が黒字（平成 3 年度から平成 12 年度までは、毎年約 2 億円程度の赤字。平成 13 年から平成 21 年度までは、約 1 億円の赤字で市の一般財源から支出していた）となっているが、国で財政再建についての議論もある中、今後の動向については、どうなるかわからない。むしろ、今のように学生 1 人当たり約 200 万円の交付税は、今後見込めない可能性が高い。また、学部による金額の差も大きい。

##### 「国から大学への交付金」

： 国立大学や私立大学は、文部科学省から、それぞれ運営費交付金と経常費補助金が交付される。名寄市立大学のような公立大学は、制度が異なり、学生一人当たりの単価が地方交付税という形で交付される。

保健福祉学部では、平成 18 年に理系・算入単価として 1 人当たり 1,572,000 円であったが、年々増加し、平成 24 年度では 1,832,000 円であった。また、平成 25 年度より、理系学部算入単価と保険系学部算入単価が新たに区分され、保険系学部算入単価により算定を受け、1 人当たり約 2,000,000 円と算出された。

#### 5 今回の視察を上田市にどうにかせるか

名寄市の場合、人口約 3 万人の自治体の中に約 700 人の学生が通う市立大学があることで、学生が地域でアルバイトやボランティアを行い、活気が出るという利点大きい。一方、市内での就職率は低く、今後の課題となっている。

長野大学でも同様のメリットは期待できるが、経営者の視点で大学運営をしていかななくてはならず、長野大学が公立大学法人化となれば、その面において維持できるかは検討課題となる。文系学部に対する交付金は、理系学部に比べると少ないが、運営経費が文系の場合は少ないという面も考慮する必要がある。

今回の視察では、大学の運営に係る収支報告書も資料としていただいていたので、これらを参考に、メリットとデメリットを議論し、しっかりと分析した上で提言していきたい。

#### 6 質疑内容

質問 : この規模の地域に市立大学が開学したきっかけは。

回答 : 女子教育の充実を目指して、昭和 35 年に当時の市長が短期大学を開学したのがきっかけ。

質問 : 議会が心配していることは。

回答 : 特に短期大学から、4 年制化及び保険福祉学部の再編を審議する際、特別委員会を設置して議論がされた。「学生が来るのか」、「収支は大丈夫か」についての議論が多く、2 回の定例会をはさみ相当な議論を重ねた。



質問 : 学生の確保に向けた動きは。

回答 : 運営も大切だが、魅力ある大学作りが、これまでも、これからも重要であり、経営者感覚をもって取り組んでいく。

質問 : 名寄市立大学では、福祉関係も同額の交付を受けているのか。

回答 : 今の制度では学部に対して交付金が決められているため、福祉も、栄養も看護も、保健福祉学部ということで単価をいただいている。今後、学科ごとに異なるのかは、わからない。

質問 : 今後、校舎の建て替えも必要だと思うが、積立などはしているか。

回答 : 短大時代は赤字で積立ができなかったが、ここ3年間くらいは黒字になったので積立をしている。今後、施設整備計画を作成する。

質問 : 地域の方々と学生とのつながりは。

回答 : 短大から4年制になったことで、アルバイトやボランティアをする学生が多くなり、つながりが強まった。また、学生がいることで地域の活性化にもつながり、アパートなども建った。その面の効果は大きい。

質問 : 受験料は、運営の足しになるか。

回答 : 入学検定料は、単価が安く大きな足しにはならない。学生募集対策事業費で、ほぼ同額が支出されてしまう。

質問 : 名寄市に私立大学があったと想定し、生き残れると思うか。公立大学法人化によるメリットは、大きいのではないか。

回答 : 確かに公立がゆえに、受験生からすれば看板になっているので、その点のメリットは大きい。

質問 : 全国的に18歳人口も減少する中、海外からの学生を誘致する動きは。

回答 : 名寄市立大学は、大半の生徒が国家試験に向けて勉強をしている。語学の問題もあり、外国の方が日本人の学生と一緒に資格取得に向けて授業をこなしていくのは難しい。今のところ、そのための体制は整っていない。